

注目の赤松分校校舎耐震工事

特別委員会・本会議ともに陳情を不採択

特別委員会を 設置し議論

平成20年11月25日に、赤松分校保護者会代表・澤克美さんから3524名の署名を添えて提出された「大山町赤松分校校舎耐震工事の早期着工を求める陳情」を審査するため、12月定例会で「大山小学校赤松分校校舎耐震補強問題等調査特別委員会（荒松廣志委員長



多数の報道陣が詰めかけた特別委員会

委員10名」が設置された。12月11日と19日の2日間、委員会としては初のテレビ中継がされる中、調査、審議は行われた。

教育委員会から、これまでの経過、教育審議会での議論及び答申内容の説明を受けた後、陳情を採決した結果、特別委員会では
採択（賛成） 0人
不採択（反対） 8人
で、不採択と決定された。

委員からの意見の要約

「示された耐震工法（筋かいだらけ）は疑問、工事に値する建物でない」「町内各小学校間の教育環境には差異がある。均等化を図り、子どもたち」に最適な教育環境を」「地域とつながった学習は、大山小本校や大山西小でも行なっている」「中学校のあり方、保育所のあり方等を踏まえ、慎重に審議すべき」「早く結論を出して次の段階に。耐震工事は無理がある。存続を考えるのなら、建替える方が子どもにも地域にも良いが、10年以上は存続させないと意味がない。」「陳情に添えられた署名は、無視できない」「耐震と統合の問題は表裏一体、教育審議会答申を受けての地元説明会は始まったばかり。地域の意向把握が不十分であり、もう少し時間をかけて審議すべき」

耐震問題決着し 今後は統合の是非に

12月19日の本会議で、荒松委員長から「陳情者の思いに配慮しつつも、教育審議会答申や教育委員会方針、同年齡児童との人間関係づくりや学習環境の公平的整備、町財政等を総合的に考慮し、答申に付記された配慮すべき事項の具現化を条件に、赤松分校校舎耐震工事の陳情を、不採択とする。」報告が行われた後、議員全員による審議と採決の結果、採択（賛成）は1人で、陳情は委員長の報告どおり、不採択（反対）と決した。

問（椎木議員）

議会の決定は、地元の意向を把握することなく、結論を先導するもの。地元、教育委員会、執行部の選択肢を奪う恐れがある。当面、継続調査を。

答（荒松委員長）

教育委員会、執行部で、十分に配慮した進め方、結論が出ると確信している。議員としての立場で、結論は速やかに出すのが大事。

質疑の要旨

問（近藤議員）

この陳情の主旨は分校での授業の再開の願い。耐震工事は、必要でないという判断だが新築の可能性を含め今後の対応は。

答（荒松委員長）

委員会の役割は、この陳情に対し結論を出すこ

反対討論（近藤議員）

統合問題と耐震問題は、表裏一体。分校には134年の歴史があり、地域を支えてきた地元の方の思いは無視できない。分校に深い愛着と誇りを持ち、守ろうとする気持ち